

FW のクロスボールに対する動きの研究 ～世界と日本のストライカーに着目して～

松尾 卓也(競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

担当教員 望月 聡

キーワード：ストライカー，クロスボール，駆け引き

1. 緒言

フォワードとは、サッカーにおけるポジションであり、チームの得点に最も影響を及ぼす確率のあるポジションである。得点を取ることはもちろん得点チャンスを作り出すことも大きな役割である。現代サッカーでは攻撃だけでなく、守備の面でも高い位置でボールを奪うことで得点に大きく近づくことができ、守備の面から直接得点に影響するのが DF と FW での守備で大きく違うことであり、現代サッカーでは必要不可欠なことである。サッカーではサイド攻撃からのクロスボールが多用されるためクロスボールに着目し研究する。自分自身の今後の競技レベルの向上とともに、指導の現場に生かすことを研究目的とする。

2. 研究方法

本研究の、研究対象は UEFA チャンピオンズリーグとヤマザキナビスコカップの各 13 試合ずつを VTR 分析し、クロスボールが放たれ、ゴールした時のシーンを取り出し、FW の動きがどのように有効な動きをしているか、また、世界と日本の FW を比較して、世界との違いや共通点を見つけ出していく。

3. 結果と考察

クロスボール数は 1 試合 1 チームの平均が約 10 本という結果になり、シュートに至った数が約 3 本とこの 2 大会はクロスボ-

ールからのシュートがクロスボール数と比較して、少ない結果となった。このような結果となった原因として、クロスボールの精度はもちろんだが、FW のクロスボールに対する準備が不足していると感じた。クロスボールが放たれる前に DF の視野から消える動きであったり、合わせるタイミングを改善する必要があると考えられる。世界と日本のストライカーを比較して、クロスボールに対する動きに関してあまり違いは見受けられなかった。日本の選手の方が、クロスボールに対しての準備は出来ていた。世界の選手は、クロスボールの精度、タイミングが合った時は得点を入れていて、日本の選手より決定力があつた。

4. まとめ

クロスボールからシュートに至るシーンが少なかったのは、FW の準備不足であり、また、クロスボールの精度であると考えた。日本のサッカーを発展させるためにも、クロスボールの精度が高いサイドアタッカーと今回のクロスボールからの得点シーンを参考に動ける FW を指導し、育成していく必要がある。